

令和6年4月24日 定例記者会見（報告）

1 日時 令和6年4月24日（水）13時00分～

2 会場 庁議室

3 出席者

＜報道機関＞山形新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新聞、NHK
SAY、YTS

＜市＞市長、秘書課長

4 記者クラブからの質問事項

- （1）ドラッグストアの開業が相次いでいますが、市長のお考えはいかがでしょうか。
- （2）温暖化の影響で、今月既に真夏日を記録した自治体もあるなど、早くも熱中症のリスクが指摘されています。今夏は市としてどのような対策を講じるお考えでしょうか。

5 内容

○秘書課長

これより令和6年度4月2回目の定例記者会見を開催いたします。あらかじめ頂戴しております質問に対しまして市長がお答えします。進行は幹事社にお願いします。市長お願いいたします。

○市長

最初の質問はドラッグストアの開業が相次いでいるが、市長の考えはいかがかということであります。ご指摘の通りここ2・3年、とみにドラッグストアが米沢市内で、開業が目立つ、というのは皆さん、ご存じのとおりです。

特に中心部、所謂一等地と思われるところにも、相次いで開業していますし、また、開業の準備が進んでいるところでございます。

私もドラッグストアを使わせていただきますし、簡単な薬とか、マスクであるとか、そういったものを購入する利用者の一人でありますので、身近なところでこういったお店ができていくということは、非常に便利だなということを感じていることも事実であります。しかし、便利であると同時に、ドラッグストアが販売している商品がお薬とかいったもの以外に、飲料水であるとか食料品、お菓子類であるとか、更には最近では生鮮食料品、お肉といったものも販売されています。こうなると、普通のスーパーと変わらないと言っても過言ではなく、かなり商品が多岐に渡っておりまして、

こうなってきますと市内の小売業への影響を率直に言うと心配もしているところでございます。

事実、私もいろいろと地域を回っており、小売業の方からは、本来ならばお店の拡充ということを考えたいところであったけれども、このドラッグストアの進出に鑑みて出店計画を見直さざるを得ないといったことであるとか、また、現状のお店についても非常に苦戦をしている、といった声を聴くところでございます。

外部の資本が悪だというつもりはございませんが、しかし、地元の商店、また、地元の小売店業がかなり経営の圧迫を受けているのではないかと、市長の立場としては危惧をしております。

残念ながらと言いますか、法制的には大規模店舗小売法が変わった現在においては、行政として、建築基準法等の規制はありますが、こういったものをクリアすると、出店を規制するという手立ては、現実には市としては持たないわけでございます。しかしながら、出店してまた一気に撤退ということになると、まちの機能としても不安を感じるわけでありまして、こうした懸念についてどう対応するのかだと思います。この問題は米沢だけの問題ではなくて、山形県内の都市における全体の問題でもあるでしょうし、もっと言えば山形県だけではなくて全国的な問題でもあろうかと思っておりますので、県とも相談をして、また、国の然るべき機関のご意向も聞きながら、地方自治体としてどういう行動がとれるのか、考えて行かなければいけないと思います。具体的に何ができるかということは持ち合わせておりませんが、その影響はかなり大きくなるのではないかと、危機感、危惧を感じているところであります。以上です。

次の質問であります。温暖化の影響で、今年既に真夏日も記録した自治体もあるなど、早くも熱中症のリスクが指摘されています。今年の夏は市としてどのような対策を講じる考えかということであります。

今年の夏については、先日も山形地方気象台の方が私のところにご挨拶に来られた際、また気象関係の方とも意見交換をした際、今年の夏については非常に暑い、厳しい夏になるのではないかと予想されるということを聞いているところであります。去年も非常に酷暑でございましたが、本市においては中学生の大変痛ましい事故がございました。米沢市としては、昨年の段階で熱中症対策を策定し、また、市長以下部長級職員で構成する米沢市熱中症対策推進会議を設置し、対応をしてきたところであります。

今年については、私が就任してからでございますが、更にスポットクーラーの設置ということで中学校、これは県と市が共同で資金を折半していくものであります。中学校へのスポットクーラー7校分に加えて、米沢市単独として、小学校に対してのスポットクーラーの設置を決めたところであります。現時点では順次設置中ではありますが、6月下旬には合計18台、各校の体育館に設置をする予定で現在、準備を進めているところでございます。運用としては体育の授業等でも使用することを、想定を

しております。スポットクーラーについては以上であります。

次に、遠距離通学対策でありますが、去年の事故を契機に、田沢地区を中心に、通学距離が6 km以上の場合は、通年を通して公共交通機関の補助を全額行います。また、4 kmから6 kmの間の場合は、冬期間のみ公共交通機関の補助を全額行います。また、小学校については4 km以上の場合は、通年を通して公共交通機関の補助を行うということを決めてきたわけでありましたが、本年度は更に中学校についてその対象を広げているところでもあります。具体的には今年4月からは、四中においては6 km未満も対象とし、夏季はタクシーを追加しているところでもあります。この結果、対象生徒は5名ということでもあります。七中学区においても、細かいことではありますけど、今年の4月から対象範囲を拡大して6 km未満も対象としたところでもあります。万世小学校も今年の4月から対象範囲を拡大し、4 km未満も対象としました。具体的には梓山地区を対象地区にしたところでもあります。こうした対象区間を、4月からも順次拡大をしたというところでもあります。

こうしたことに加えて、昨年度も行っている、気候変動適用法で定められているところのクーリングシェルターであります。現在もクーリングシェルターの対応の準備を進めているところでもあります。現時点では、コミュニティセンターを中心に、全てのコミセン及び市民文化会館やナセBA、児童会館、笹野の民芸館、道の駅米沢、すこやかセンター等々併せまして合計27の公的な場所、そして、ヨークベニマルの米沢店、春日店、門東町店、成島町店の4店プラスNPO法人結いのき、の併せて5か所の民間施設のクーリングシェルターの設置が決まっているところでもあります。順次、これが拡大できるように、現在進めているところでございます。

更に、4月5日から公式LINEでの市民の皆さんに対しての注意喚起といったものを発信させていただきましたが、順次LINE等を使つての市民の皆さんへの注意の喚起を行いたいと思つているところでもあります。なお、現在検討中といいますか、最終的な設置場所等は検討中ではありますが、民間会社の、民間天気予報会社のウェザーニューズさんと包括的な連携協定を結ぶということを検討しているところで、今、具体的な内容を詰めているところでございます。民間企業の、予報会社の知見を、市民の皆様に対する情報の提供であるとか、とりわけ、学校施設の教職員の方々への適切な情報の発信・共有といった体制も整えるべく、今、教育委員会に於いて検討を進めているところでございます。今年の夏から運用できるように、準備を進めたいと思っております。

以上、私の方から、ご質問に対しての回答は以上になります。

○秘書課長

それではご質問をお受けいたします。進行につきましては幹事社にお願いしたいと思っております。

○記者

一番の質問に絡んでお聞きしたいと思います。

先程、商業関係者の声ということをご紹介いただきましたけれども、こういった業種の方が、このドラッグストアの出店で困った声があるのか、具体的に教えていただきたいと思います。

○市長

かなりこれは広範ですが、まず地元のスーパーのような小売です。小さいスーパーもあります、そういったスーパーマーケットもそうですし、また、食品小売業の方々からも声を伺います。生鮮関係を含めて、そういったお声を多く伺います。

地元資本ではないですが、地元の方々が経営をしているという意味ではコンビニの経営者さんからも売り上げ下がったといった声を聞きますし、広範にわたっているなといった感じがしています。

○記者

今現在の状況として、どのくらいのドラッグストアが市内にですとか、今後の出店予定などを把握されているものがあれば教えてください。

○商工課長

商工課で抑えている数字ですが、3月末現在でドラッグストアが24店舗あります。あと新規出店が今現在3店舗予定しているというところであります。

○記者

その店舗数というのが、他の市町村に比べて多いということはあるのでしょうか。

○商工課長

他の市町村については数値がおさえられていないことがあります。大規模小売店舗については1,000㎡以上が県に届出ますが、それ以外については、米沢市は独自に500㎡以上については届け出いただくことにしていますので、それで把握しているのですが、他の自治体がそこまでしているのかどうかは不明です。

○記者

先程市長は危機感を感じているという言葉で、ただ具体的ことについてはこれからということでしたが、どんなことが考えられる。或いはどんなことをしてみたいといったことがあるようでしたらお願いします。

○市長

非常に難しいと思います。地方自治として、一つは国に対して何らかの規制をかけることについて要望するという道はあろうかと思います。例えば営業日規制、営業時

間規制等が考えられます。事実、国がそういう規制をかけている有名な例としてパリなどは、土日は店をやっているということを法律で決めているわけです。違反した場合はかなりの違約金を支払うということでパリをはじめヨーロッパでは、ドイツなども土日は店を開かせない、こういったことをやっているわけです。国であれば規制ができますが、もし地方でそういうことをやろうとすれば「特区」の申請が考えられますが、そういう「特区」というものが、できるのかどうか私はわかりません。ただ規制をかけるだけではおそらく特区制度として認められませんので、これはかなりハードルが高いのかなと思っています。お店に対して、これ売るなとかいうのはなかなか難しいと思いますが、規制という意味ではそういう時間規制、曜日規制というものが、方策としてはあり得ると思います。国においてそういったことをやってほしいという要望は出せると思いますし、地方でやるなら特区であろうと思います。ただハードルは高いと思います。

○記者

次2番の質問に移ります。

昨日の一部報道の中で、ウェザーニューズのことがありましたけれども、実際山形市で実際始まっているリアルタイムの観測ですとか、そういったものを米沢市でもされるのか、内容について決まっているのであれば話していただけますか。

○市長

ウェザーニューズさんと私もお会いをしまして、また担当部署職員とも会っていたき、話を詰めているのは事実です。そして、方向としてウェザーニューズの知見を米沢市政に生かすために、包括的な連携を結ぼうと考えています。具体的には今年の夏に向けて、学校に対して詳細はこれからであります、センサーを付けて、山形市でやられていることと同様のシステムを米沢市でも導入したいと考えています。山形市ではすでに運用が始まったようでありますが、我々としても遅くとも6月には試験的な導入を進めたいということで今詰めております。具体的にどういう学校にということ、今、教育委員会において検討を進めておりますけれども、6月には導入し、今年の夏には間に合わせるという方向性は決めております。

また広い意味で、ウェザーニューズの予測度、予測確立というものは非常に高い評価を得ているので、これから秋のイベント等がございます。たとえば花火大会とかそういうイベントにある程度天候の予測がつくとそれに対応した準備作業というものも進められるわけでありますので、どういう連携ができるのか詰めてまいりたいと思います。観光や米沢市の持つサッカー競技場の予約とか、そういったことに対しても、ウェザーニューズの知見というものが生かされるのではないかなと思います。また防災についても、気象庁との連携はこれまでもやっているわけでありましたが、加えてそういった気象リスクである、異常気象や災害の予測情報等も、こういった民間予測機関の力をお借りし、危機管理上の連携もできると思います。詳細はこれからでありま

すが、決定しているのは山形市と同様の機器を学校で導入すること。教職員の方々に
対する情報の提供、そして負担の軽減ということです。

○記者

6月中の導入ということですが、包括連携協定自体を結ぶのでしょうか。

○市長

導入前に協定は結び、センサー自体は6月から運用を開始できるように、スピード
感をもってやりたいと思っております。

○記者

今、秋のイベントということがありましたけれども、上杉まつりもありますが、上
杉まつりに向けて熱中症対策で考えていらっしゃることはありますか。

○市長

観光課でどのような対策を考えているのか、詳しくは承知しておりませんが、観客
の方だけでなく、まつりに参加する方も心配されます。たとえば川中島合戦です。日
中のことでしょうし、観客の方もそうですが、参加している方々が心配ですから水分
補給を十分にとるようにといった指導は、観光課で行うと思っていますが、具体的
には承知しておりません。

○記者

スポットクーラーの話ですが、6月下旬までに設置とのことでした。他の自治体と
それぞれ考え方があって、1台であったり複数台であったりするわけですが、米沢市
として1台配備して、例えば故障ですとか何かあったときに、その代わりとなるよう
なものがあるのかどうか。それともその期間はストップしてしまうのか、教えていた
だきたいと思います。。

○市長

基本的には、小学校には今申し上げた18台を設置するということで、その台数で
回すということです。故障した場合は応急の修理を急ぐという対応になるだろうと思
います。もちろんバックアップがあれば越したことはありませんが、予算には限りが
ございますし、私としてはとにかく全ての学校に配置するということが重要だと考え
ますので、限られた中で市単独の予算を組んだということでもあります。ただ、ウェザ
ーニュースとの連携もそうですが、スポットクーラーも同様に、去年の痛ましい事故
があった米沢でありますから、やはり、そうした反省に立ってやれることをやるとい
うことだと思っております。

○記者

では3番のその他に移ります。

私から一点お聞きします。栗子山の風力発電施設の今現在の進捗状況と、市としての考え方というのがあれば教えてください。

○市長

県に対して米沢市としての意見書を提出する段階でございます。意見書については、当初は今月中ということが言われておりましたが、それが5月10日頃に延長することをお話をいただいております。

私とすると、非常に関心が高まっている分野でもありますので、きちんとした意見書を提出しなければいけませんので、今、担当部署で詰めていますが、ある程度できあがった段階において、我々行政側だけの一方的な考え方ではなくて、必要があれば市議会にもこの基本的な原案をお示しして、市議会の方々のご意見も踏まえて、最終的な米沢市としての考えを提案するというプロセスを取りたいと思っております。そういう段階ですので、具体的に申し上げる段階ではありませんが、プロセスとしては市議会にも付したうえで、最終的に米沢市としての考えを県に伝えたいと思います。

ただ、現時点できっちりしなければいけないと思っているのは、いろんな懸念に対して県にきちんとした調査をお願いすることになろうかと思えますし、また、これは民間の事業者に対しても、これまでも言ってきていますが、やはり、より丁寧な説明が足りていないと思っていられる方が市民の中に一定数いらっしゃるということも事実でありますから、そこに対しての懸念を払拭するような丁寧な説明を求めていると思っております。具体的な内容等については、最終的に決まった段階で皆様方にもお示しすることになろうかと思えます。

○記者

増田さんのところでやっている人口戦略会議について、10年ぶりに分析したところですが、市長がご覧になっていれば感想を聞きたい。

○市長

見ておりませんが、少なくとも国立人口問題研究所の数値は私も承知しておりますので、その数値とそんなに大きな差はないんだろうと思います。もしかしたらそれより悪いのかもしれない。ただ将来予測を見るまでもなく、昨年度1年間に米沢で生まれた赤ちゃんの数が400人を大幅に割り込んで、確か350人台になったということでもあります。過去最低であります。20年前と比べると半分以下というか、激減をしているわけでありまして、先の予測はそのことから当然、その状況が続けば推計できるわけであります。この赤ん坊の数を見たところでも、危機的ではなくこれは危機であるという認識に立っております。30年先が危機なのではなくて、今も危機だと思っておりますので、様々な施策を打って行かなければいけないと思っています。

○記者

上杉まつりについて、過去の人と比較してもいけないんですけど、まつりの時には市長は何かコスチュームを着て登場するご予定はありますでしょうか。

○市長

私のコスチューム姿を見たくてこられる方は一人もいないと思います。盛り上げたい気持ちは十分ございますが、特に予定はしておりません。ただ、民謡流しは前市長も大変軽やかな踊りをされていたと思います。私は軽やかな踊りとは程遠い、かなりまずい状況なのですが、今、特訓をしなければいかんということで、先日も新人の職員の方と一緒に練習させていただきました。歳が歳なので、新人の方と違って体の覚えが悪くて、それこそ危機感を感じているところであります。姉妹都市等をはじめ、観光客の皆さんに対して、きちっとしたおもてなしをしなければならないと考えています。

○記者

そういった意味では、前市長は馬に乗られたり、赤い忍者姿で挨拶されたりしておりましたが、そういうことは今年のご予定はないのですか。

○市長

民謡流しと行列はフルセットで参加したいと思っていますが、中川前市長は赤忍者の格好をされていたんですよね。なかなか見事だなと思うのですけれども、私はそこはちょっとご遠慮して、その時間、姉妹都市等の方々へのおもてなしの時間にさせていただければと思っております。

○記者

前も聞きましたが、副市長についてをお伺いしたいと思います。選んでいる途中だというようなお話を前回うかがいました。就任から4か月空席状態ということなので、今の状況というものをまずは教えていただきたいと思います。

○市長

就任当時から特に変わっておりません。現在も適切な人がいないか鋭意熟考中と言いましょうか、人選中でございます。市民生活に大きな支障があるとは思っておりませんが、いらした方が市長は楽になりますよとアドバイスしてくださる方もいらっしゃいます。適任の方を選びたいと思います。

○記者

米沢市というのは副市長の定数に関する条例があって、定数は1とするという条例がある中で、0が続いているという状況というのは、市長はどう捉えていらっしゃる

ますか。

○市長

適任の方がすぐ選べて、十分に能力を発揮していただければそれに越したことはございません。ただ、そういう状況ではなく、その分、部長級や課長級をはじめとする幹部職員の方々に仕事をしていただいているということだと思っております。

○記者

勿論、執行部の方々のというところは理解はするのですけれども、いた方がいいというのではなくて、米沢の場合はいなくてはいけないという条例のはずであると聞いたんですけれども、近藤市長が理想とする副市長の職務というか、どういうものを任せたいと思い、どういう人選をすすめていますか。

○市長

規定上書かれているのではないかと思います。副市長の職務は市長を補佐することだと思しますので、例えば総務部門だとか、商工部門であるとか、その部門を統括するという形ではなくて、あくまでも市長を補佐するという認識でおります。

○記者

いつごろまでにということはお示しいただけないということですか。

○市長

良い方がいらっしゃれば速やかにということでございます。

○記者

今、会合だったり会議に市長の代理で行かれる場合、どういう方が行かれるのですか。

○市長

基本的に、就任1年目というのは、できる限り会議には自分で出てみるというのを基本においています。ただ、物理的に不可能な会議が出て来ますので、それについては例えば教育関係なら教育長に出ていただく場合があります。所管によって、例えば福祉関係の会合であれば健康福祉部長でありますし、企画調整部の会合であれば企画調整部長ということで、部長級の方々に出てもらうということを基本として考えています。

○記者

特別職でなく一般職の方に出席してもらっているということですよ。

特別職と一般職の方との役割みたいところで、その場において不具合が出てきたりはしないのですか。

○市長

私が市長になって皆さんがどう思っているかを聞いていただいた方がよいのではないかと思います。目に見える不具合はないのではないかと思います。現実的なものを言うと中川前市長の時でも、安部三十郎前市長の時でも、私は衆議院議員として参加させていただく会合もありましたし、地域の会合であれば一住民として、地区の新年会ですとか会合に出ていました。たとえば地区の新年会、西部地区の新年会に一住民として出てましたけど、中川前市長が毎回西部地区に来ていただいたということではなく、それこそ当時の副市長が来ることもなくて、部長が来るというケースも結構多くございました。それで極端なマイナスということがどこまであったかということとはよくわかりません。同様の会議でも市長が出ないから極端なマイナスかということはないと思います。ただ、私とすると1年目ですし、できる限りいろんな会合に出させていただいて、2年目以降もそうなるかもしれませんが、いろいろ直接市長として市民の方の話を聞く大事な場でもありますから、出席したいということで考えています。

○記者

他に何かありますでしょうか。

○秘書課長

これをもちまして令和6年4月の定例記者会見を終わります。